

審議会等名称	第１回 近江八幡市子ども読書活動推進委員 会議		
開催日時	令和７年７月３０日（水）１５：３０～１６：４０		
開催場所	近江八幡市役所　４階第３・４委員会室		
出席者 会　長◎ 副会長○	＜子ども読書活動推進委員＞ ◎工藤　雅子 ○伊丹　稔 深井　千恵 善住　晶子 小西　里奈 猪谷　真紀 ＜事務局＞ （挨　拶）　清水生涯学習課長 （事務局）　学校教育課　安達指導主事 生涯学習課　磯井指導主事		
次回開催予定日	令和８年２月		
問い合わせ先	所属名・担当者名：　近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課　磯井 電話番号：０７４８－３６－５５３３ Fax番号：０７４８－３６－５５６５ メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要約	要約した理由	

事務局	1 開会 ただ今より近江八幡市子ども読書活動推進委員会を開催します。 私は事務局を担当いたします生涯学習課の磯井と申します。よろしくお願いいたします。 皆様におかれましては、平素より、近江八幡市の子ども読書活動の推進にご尽力いただき、ありがとうございます。 会に先立ち、生涯学習課次長 清水がご挨拶申し上げます。
生涯学習課長	(1) 挨拶 こんにちは。皆様におかれましては、本市の教育行政にご理解とご協力を賜りまして厚くお礼を申し上げます。また、日頃は子どもたちの読書活動の充実に向けまして、それぞれの立場でご尽力いただき、誠にありがとうございます。本市におきましては、早寝・早起き・あさ・し・ど・うということで、もう皆さんいろんなところで議論していただいていると思いますが、その強化を掲げているところです。市民全体にも、読書活動の推進を啓発しているところでございますが、教育委員会におきましては令和7年度教育行政基本方針のスローガンで、さらに生き抜く力の育成を掲げています。耳にさせていただくと、学力であるとか、お勉強の方にどうも意識がいつてしまうかなと思いますが、教育委員会においては判断力とか表現力であるとか、それから感性など多岐に渡る能力をバランスよく伸ばしていくということが非常に大事であろうと。そういったことが課題発見能力に繋がるとか、さらには課題解決能力に繋がるとか、これこそが、確かな学力に繋がっていくだろうなということを捉えているところでございます。非常に変化の激しい時代でありますので、この時代をどう生き抜いていくのか。しなやかに困難を乗り越えていくであろうとか、そういったところもぜひ増やしていきたいなということでございます。本日は、第3次の近江八幡市子ども読書活動推進計画における進捗状況を確認いただきながら子どもたちの読書環境がより充実したものになりますように、さらには近江八幡市の子どもたちが読書を通じて新しい世界と出会えるとか、豊かな心を育んでいくようなところをより一層強化できますよう、お力添えを賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	2 自己紹介・委員の委嘱について 続きまして委員の皆様へ委嘱並びに任命についてご説明いたします。本委員会の委員任期は2年となっております。今年度から委員をお引き受けいただいた方に委嘱状、任命書を交付させていただきます。本来であれば、委員の皆様へ手渡しさせていただくところですが、時間の関係上、お席に置かせていただきました。これをもって交付とさせていただきます。任期は令和8年度末となっております。どうぞよろしくお願いいたします。 本日の出席者の委員は6人です。半数以上の出席ですので、近江八幡市子ども読書活動推進委員会設置要綱第6条第2項の規定により、本会議は成立しております。近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱により、本会議は公開され、会議終了後近江八幡市ホームページに議事録が掲載されますことをご了承ください。また、会議内容を録音いたしますのでご了承ください。あわせて記録用に写真を撮影しますが、不都合な方はお申し出ください。よろしいでしょうか。 今年度も、第3次子ども読書活動推進計画に基づき、本会議で議論をしていきたいと思っております。会議は年間2回実施し、子ども読書活動の推進をしていきます。委員の皆様、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。 また、今年度も、子育て政策課、子ども家庭センターどちらの課も出席はございませんが、どちらの課にも子ども読書活動を推進していただきます。今年度の指標の進捗状況は、両課に確認をいたしまして、生涯学習課から皆様にお伝えをいたします。

委員長	また本日、高等学校、それから図書館の委員様のご都合により欠席をされておりますが、進捗の方は報告をいただいておりますので、その部分についても私の方から報告をさせていただきます。 それでは、本委員会委員長の工藤様よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。 今回、このお役目をいただきました工藤です。長い間この会に属しておりますが、今までは市島先生が会長をさせていただいて、私は副委員長で、ただおんぶにだっこでくっついておりました。お役に立てるかどうか分かりませんが、頑張らせていただきます。今朝の読売新聞を読みましたら、「本は文化遺産 保護なくては」という見出しで、記事がありました。これは、日本の現状を踏まえて、出版文化産業振興財団という方たちが、フランスへ視察旅行に行かれた報告のような形になっていました。それによりますと、フランスでは大型量販店内の書店ではなくて「孤立系書店」が多いということです。そして、それを新規開店することが多いそうです。近江八幡を考えると、本屋さんが何軒かあったのが無くなりまして、今は大型量販店の中に入っているだけです。それがフランスにおいては、新規店舗を出すときには公的な資金援助の充実がなされている。2021年から24年には72店舗閉店したけれども、新規が382店舗オープンしている。特徴としては、若者の店主が多いそうで、それなら子どもたちは店舗に入りやすいだろうなあと思いました。それで、先ほど言いました「本は文化遺産 保護なくては」とおっしゃった方は、フランス文化省書籍経済部の部長の方でした。これは、国と自治体がやはり協力をして、本は文化遺産だから保護していかなければならないと。それで、具体的には、国民教育省と連携して、学校の課外活動に著者との出会いの場を設けていく。それから、児童青少年ブックフェスティバルの実施をしている。中高生が近所の書店で好きな本を選び、支給されたクーポンで購入できる政策を取っている。それは、「若者を書店に」ということで、そういう施策を現在行っていると書かれていたんです。これを読んで、ここまでは日本や近江八幡市にはちょっと要求はできませんけれども「近江八幡市で本を購入するためにクーポンが支援されている」なんて言ったら素敵だな、と思って読んでいました。 この話はこのくらいにして、始めたいと思います。
事務局	3 第3次子ども読書活動推進計画進捗について これより議事に入ります。当会設置要綱第6条第1項の規定により、この後の進行は工藤委員長をお願いいたします。では、工藤委員長、よろしくお願いいたします。
委員長	それでは、本日の次第に沿って進めます。まず初めに、各指標の進捗状況について、各担当課より報告をお願いいたします。 まず最初に、①学校司書の配置の割合について、学校教育課さん、よろしくお願いいたします。
学校教育課	まず、指標についてですが、50%。去年度、司書を5人から8人に増員しましたので、昨年度から1人当たりの担当が3校だったのが、1人あたり2校になりました。経験のあるベテラン司書から経験の浅い司書までおられますが、お互い情報交換しながらであったり、司書の研修を生かしながら、各校で情報を交換してくださっています。将来的には100%を目指すのですが、今の状態で言うと、2校で工夫しながら活動してくださっているので、今現状としてはこれで良いかと思います。
委員長	よろしいですか。質問などはありませんか。では、次にいきましょうか。②1か月に1冊以上本を読んだ子どもの割合について報告をお願いします。

学校教育課	まず、小学校が 98.4%、中学校が 97%ということで、昨年度並みかなと思います。これは、小学校では隙間時間に読書をしたりだとか、読み聞かせ、また図書館を活用してのいろいろな読書の工夫を先生方がしてくださっているのも、この数字なのかなと思います。中学校の方は、どの学校も朝読書に取り組んでおられますので、ほとんどの生徒は朝に必ず読書するということが習慣になっています。そのため、以前よりも 1 ヶ月に 1 冊以上読めている子が増えているのではと思います。
委員長	よろしいですか。
事務局	高等学校の方は、私から報告させていただきます。資料の中で右上に「高等学校」と書かれているものをご覧ください。4 校から回答いただいています、そこにありますように八幡商業高校が 66.3%、八幡高校は 34.4%、八幡工業高校は 97%、ヴォーリズ学園は 37.3%とご回答いただいています。八幡工業高校の数値が非常に高いのがあるがたいなと思いますし、80%を目指していただくというところで、八幡商業高校も近い数値になってきておられるので、今後ともまた取組をお願いしたいと思います。
委員長	では③へ行きましょうか。家で 10 分以上の読書を継続している子どもの割合について、生涯学習課お願いいたします。
生涯学習課	では生涯学習課から報告させていただきます。今度は「生涯学習課」と右上に書かれている資料をご覧ください。家で 10 分以上読書している子どもの割合ですが、そちらの表にありますように、小学校の方では全くしないというのが 28.9%、10 分より少ないが 23%、10 分以上 30 分より少ないは 24.4%、30 分以上 1 時間より少ないが 12.5%、1 時間以上 2 時間より少ないが 6.8%、2 時間以上するという子が 4.3%です。その割合が中学校になりますと、順に 15.6%、26.7%、40.7%、8.1%、6.2%、2.7%と変わっていきます。 全体でいきますと、全くしないが 22.7%、続いて 24.7%、32.0%、10.5%、6.5%、3.6%という数字になっていきます。昨年度のこのときの同じ調査の結果と比べますと、全くしないと答えている児童生徒の割合は増えておりますが、1 時間以上 2 時間より少ないであったり、2 時間以上する生徒の割合というのが、本年度は増えているということが資料から分かりましたので、そのことも報告させていただきます。
委員長	よろしいですか。質問はないですか。 では、④就学前施設での 1 人当たり年間貸出冊数について、幼児課からお願いいたします。
幼児課	園によって貸し出しの形態が違うので、1 人当たりの冊数を上げるのはちょっと難しいのですが、各園にアンケートをとりまして、小規模保育事業所と家庭的保育事業所は 5 園ほど未回答でしたが、それ以外の 29 園の回答の中で、28 園が何らかの形で貸出をしています。その回数は、やはり 1 ヶ月に 1 回の園だったり、週 1 回の園だったりということが大体多いのですが、中には随時借りたいときにどうぞという園があったり、各園で工夫されています。冊数までは分かりません。
委員長	ありがとうございます。では、⑤学校図書館での 1 人当たりの年間貸出冊数 小学校、中学校につきまして、学校教育課の方でお願いいたします。
学校教育課	全小学校の貸し出し冊数は今年度 13.5 冊で、中学校は 2.6 冊になります。昨年度に比べると小学校昨年 14.1 冊でした。中学校は一昨年度 1.5 冊で、昨年度は 2.1 冊、今年は 2.6 冊で増加傾向にあります。中学校の方は、部活動もあり忙しい中、図書館になかなか行くことができないということも聞きますが、学校司書にも工夫をし

	ていただきます。また、中学校は生徒昇降口等がホールになっていまして、帰りに立ち寄れるであったり、子どもたちの目につく場所に本を置いていただいて、図書館に行かなくても図書に触れられるという環境を工夫していただいているので、それらのことが、貸出冊数を増やしていく一助になっていると思います。
委員長	続きまして、⑥図書館での児童書の1人当たりの年間貸出冊数につきまして、よろしく願いいたします。
事務局	令和7年の4月から6月の数値ということで、資料にあります計算の方法によって10冊という回答をいただいております。数値の目標が17ということで出ておりますが、今後また増えることによって、この数値も上がってくるのかなと思います。
委員長	ありがとうございました。次は⑦図書館と連携を実施している校園所の割合について、幼児課、学校教育課、高等学校の順でお願いいたします。
幼児課	先ほどと同じで未回答の園もあるのですが、回答してくださった園のうち24園、割合としては82%の園が移動図書館やお話し会、図書館に出かけて見学したり、お話し会をしてもらうという形で連携を取らせていただいています。
学校教育課	続いて、学校教育課です。もちろん小中ともに100%です。はちっこぶっく号が遠いところに行きますので、そういうのも活用しながら、進めてもらっています。小学校の方ですが、学校図書館の蔵書は司書が考えてくださっていますが、足りないものは市立図書館に相談して、団体貸し出しということで連携を行っています。
事務局	先ほどの高等学校の資料をご覧ください。連携を実施しているかどうかということですが、4校中2校が連携をしているということになります。本の貸し出し利用は無いのですが、八幡商業高校でPOP展示を連携でやっておられるということ。それから八幡高校についてはこの4月から7月までに2回利用されて50冊借用されているということで、割合については半分ということになります。
委員長	では、⑧読書活動に関わる研修の実施や研修への参加につきまして、幼児課、学校教育課、高等学校の順番でお願いいたします。
幼児課	先ほどおっしゃっていただいた全園所を回る出前お話し会で読み聞かせをしてもらったり、その後カンファレンスをしていただいたりしています。それに加えて、各園所にて、子どもの実態に合わせて研修を行ったり、参加した研修を職員間で共有できるように工夫をされています。
学校教育課	学校図書館担当者会を年2回開催していますし、そこで図書館の利用について呼びかけをしています。また、夏の研修であったり、司書教諭・学校図書館担当者に参加いただいて、図書に関する研修を行ったり、今年県の方でも図書館に携わる人の研修がありますので、今後もそういった研修を引き続き行っていく予定をしています。
事務局	高等学校の先生方の研修は、資料にあるような研究会であったり発表大会に参加いただく以外に、個人でオンデマンド配信などの外部研修に参加いただいているということで、研修率は100%になると思います。また、ヴォーリズ学園は、8月19日に本市で予定させていただいています子ども読書活動推進研修会にも参加予定ということで、大変ありがたく思っています。

委員長	では、⑨生涯学習課事業を活用した読書啓発の回数を、生涯学習課の方でよろしくお願いいたします。
生涯学習課	生涯学習課の事業を活用した読書啓発に関わってですが、令和7年度の目標回数は4回となっています。4回の内訳は、2学期、9月以降に実施の子育てサロンにおきまして、ブックリストの配布および本の展示をさせていただこうと思います。 あと、中央公民館講座というのがございまして、このうちの3回で同じようにブックリストの配布等を予定しております。昨年度の活動に加えまして、今年度はその中央公民館講座で、指導主事が実際に子どもたちを前に読み聞かせを実演してみようではないかというようなことを計画していますので、そのように報告をさせていただきます。
委員長	では、⑩読書啓発活動の実施へ入ります。市立図書館、学校教育課、幼児課、生涯学習課よろしくお願いします。
事務局	子どもの読書活動啓発活動の実施ということで、目標数値は1回以上となっていますが、3回の企画がございまして。官報の発行、コーナー展示、それで最後の1つについては既に実施済みということだそうですが、『子育て支援団体おもちゃの図書館すくすくちゃん』というところから依頼を受けて、図書館の方が絵本の講座の講師としてご対応されたということです。図書館からは以上です。
学校教育課	今年もPOPコンクールを実施しています。一番おすすめの本をポップにして紹介するということを昨年に続いて実施しておりまして、今年も募集期間は9月から10月になっていますが少し繰り上げて、夏休みの宿題で取り組めるように準備をさせてもらっています。また、昨年度、一昨年度もあった『学校図書館の活用のススメ』という通信を発行させていただこうと思っています。それで、司書がそれぞれ学校の周りであったりとか、そういったところに展示を個性的に作り上げてくださっていますので、図書館の環境という部分でも啓発につながっていると思います。 先日、富士宮市と近江八幡市の児童交歓会があったのですが、市内12校から来ている児童の事前研修会の際にも、富士山の学習や富士宮市の学習にあたり、図書を図書館からお借りして、それらの本をそこに並べておいて事前学習のヒントにしてもらうというような活用の方法で、読書活動と呼びかけるなどしています。
幼児課	各園所で絵本貸出の他に、絵本コーナーを設置して絵本の紹介をしたり、絵本関連の掲示をしたりしています。あと、クラス便りや、園によっては絵本便りなどを発行して、保護者にも絵本を通しての親子の関わりや、絵本を読むことへの関心を持ってもらえるようにしています。
生涯学習課	生涯学習課としましては、先ほど申しましたように、8月19日に子ども読書活動推進の研修会を実施させていただくということで、現状の予定としては1回になります。 生涯学習課の資料の裏に子育て政策課と子ども家庭センターからの進捗の報告がありますので、ご覧いただきたいと思います。子育て政策課は放課後児童クラブ等の活動をされているのですが、そこに書いてありますようにお便りを発行していただいたりとか、読み聞かせ等の活動もしていただいていると聞いています。また、子ども家庭センターの報告からは、それぞれの場所で様々に、そして丁寧に活動いただいているということが、その表から分かります。
委員長	それでは、⑪読書活動充実に向けた取組回数ということで、お願いいたします。

幼児課	4月の子ども読書の日と、11月の市民読書月間に啓發文書を周知することにより、読書活動充実を図る予定をしています。あと、各園所の取組は様々なので回数としてはあげられないのですが、先ほどの出前お話し会とか、親子向けのお話し会、ボランティアさんによる読み聞かせ、あと登園時や行事のときに、保護者にも絵本を手にとってもらうきっかけを作っている園所もあります。
学校教育課	小中の図書委員会がありますので、子どものアンケートにはなるのですが、選書を行っている、そういう取り組み1回になります。子ども読書の日も、司書を中心に活動を行っています。昨年度もそうだったのですが、給食センターから給食と関連した本の紹介であったり、そういったことを各月にまたがってやっていますので、今年も司書と協力しながら、食べ物に関することもやっていきたいと思います。
事務局	資料を見ていただきますと、八幡商業高校は15回を予定されていたり、他の高校でも今年度の2回以上という目標を達成するような様々な取組をしていただけていることが、ここから分かると思います。また、子どもの意見を取り入れた選書というところで、各校様々な方法でリクエストを募って選書しているということもここでわかりますので、そのことも併せて伝えをさせていただきます。 続きまして図書館ですが、目標2回以上ということで、子ども読書週間の取組としておみくじ、そして「クローバーを探せ」というしおり探しゲームというような形で充実に向けて取り組まれるということです。
委員長	ありがとうございました。 4 質疑応答・意見交流 ここから意見交流に入ります。先ほどの報告を受けまして、意見やご質問はありますか。 ずいぶんいろいろな活動をしてくださっているようですが、大変忙しそうだなと思いましたこれ、これを1年間でやっていかれるわけなんでしょうけど、子どもたちに本当に本が届けられて楽しんでいけているのかというのが、実際問題としては心配になります。本が好きになるっていうことがまず第一ですから。楽しむ、そして好きになる。それから読み始めるのではと常々は思っております。どうですか。これはこれでよろしいですか。
事務局	現場の先生方は、子どもたちのそばにいていただいて、子どもたちの読書活動をいろいろと見守っていただいていると思いますので、そのことに関してお感じになられているようなことを少し伺いできればと思うのですがよろしいでしょうか。
委員長	はい。
委員	今、委員長が「本を好きになることが一番」と言っていたいたが、ちょっとそこが今引っかかっています。今、小学校でも中学校でも1冊以上読んだ子の割合が高く、その時間を持つことがその数値の割合を上げることにつながっています。就学前の場合、先生が1日1冊は子どもたちに本を読むという時間を大切にしています。ただ、家に帰ってから保護者が子どもたちに本を届けてくれるかどうかについては、保護者も本を好きになってくださるかどうかなので、子どもも本が大好き、保護者も本が大好きとなればいいなと思い、保護者にも本を手にとってもらえる機会を大切にしています。登園時に目につくところに本を置いたり、絵本室を開放してみるなどしています。そういったいろいろな種まきが小学校・中学校と続いていくことを見据えながら、取り組んでいます。
委員	小学校ですけれども、金田小学校は司書がほぼ毎日いてくださるようになりまして、いつ行ってもいてくださるというのは子どもたちもすごく安心感があります。

	利用は増えたかなと思っています。その司書さんも学校の方針を随分理解してくださっていて、みんなバラバラの方向を向いてはいけないと思うので、担当者連携会議というのを年度の始めや学期の始めに行っています。学校としても読書とあいさつに力を入れたいというお話をしているので、司書さんもそれをすごく理解してくださっていて、とにかく集客するっていうのを目的にしてくださって、例えば、ホワイトボードを使って低学年も高学年もみんなが一緒にしりとりをする「何でもしりとり」や、ビンゴの用紙の中に動物の名前が書いてあって、その動物が出てくる本を探す「何とかビンゴ」など、そんなちょっとした、いろんなイベントをしてくださって、子どもたちがよく来館します。あと司書にいろいろ聞けるとか話せる子も増えてきました。夏休みも開館してほしいという要望を去年から聞いていたもので、今年は夏休みに3回開館することにしました。図書ボランティアも35人いてくださって、昨日が開館日だったのですが、子どもたちだけで30人以上集まっていました。10時から読み聞かせをしてくださるということも周知をしていたので、司書による紙芝居や絵本の読み聞かせをしてもらいました。みんなそれを楽しみにしていたみたいです。後は、金田小学校はガラス張りの図書館で、みんながそこを見ながら登校してくるし、お客様もそこを通られるということで、図書館がメインの場所にあるので環境が良い学校です。図書館祭りというのも毎年秋にイベントとしてやっていて、それも年間計画に入るぐらい根付いていますし、本に親しむ子は多いです。調べ学習をするのも、担任はタブレットを子どもたちは好むだろうと予想していたのですが、「タブレットの情報は嘘のこともあるから、やっぱり本で調べたい」ということを子どもたちが言ったらしく、それはやっぱり司書が調べ方を教えてくださっているということも大きかったかなと思っています。索引の見方や出典などについても発達段階に応じて教えてくださっているもので、調べ学習も上手にできるようになってきているかなと思います。あと、家でなかなか読むのは少ないけれども、とにかくやっぱり学校の中で、授業とか活動の中で本に親しむ機会を作っておけば、後々大人になってからも本に親しむようになっていくと思うので、やはり時間的に家で読むというのは、今の子どもたちは小学生も中学生も歳が上がるにつれて時間的に難しく、元々本が好きな子でない限りは、そこに時間を割くというのは難しいことなのかなと思います。学校の中でいかに本に触れさせる機会を作るかが大事だと思っています。
委員長	そうですね。そのイベントをするときには、司書の企画でいけるのですか。それとも、やはり先生方と一緒に相談して行うのですか。
委員	全部タイアップにされていて、最初は全部ボランティアによるお祭りみたいな感じだったのですが、それを変えて、ボランティアと、図書委員会と、司書と、教員と、という形になりました。司書は図書館にある本からクイズを作り、教員はおすすめの本を葉に書きます。図書委員の子もおすすめの本を書くこととイラストを描くようにしていて、当日はボランティアがスタンプラリーのスタンプを押してくださったり、葉を作ってくださったりという感じで、全校挙げてのイベントになっています。先生たちも子どもたちと一緒にスタンプラリーを回って、最後にゴールの図書館で葉をもらうという風になっているので、みんなで取り組んでいます。
委員長	結構、その基本の流れが出来てきているのですね。
委員	そうです。始まりはコロナ禍のときに、何か子どもたちに楽しさをということでボランティアがハロウィン祭りというものを図書館で始めてくださったんですけど、それも3年ほど続いて少しマンネリ化してきたので、形を変えようかということになって、今は、そのような形です。

委員長	金田小は本に対して頻繁に活動しておられる動きがあるようですが、他の小学校はどうでしょうね。
委員	一昨年、老蘇小学校にいさせてもらったのですが、小規模校であり、ビオトープがメインの学校でした。外にビオトープやザリガニが釣れる場所や川があるので、そこで遊ぶことが好きな子どもたちが多く、図書館に行く子は少なかった印象があります。図書館自体も少し古く、学校によって力を入れていることは異なります。あと、図書ボランティアを募集しましたが小規模校ということもあって応募が少なかったです。でも、「はちっこブック号」では必ず借りていましたし、家読週間もやっていたから、どこの学校でもそのように読書活動に力を入れていると思います。
委員長	何らかの努力はしてくださっているとは思いますが、ありがとうございます。
委員	安土中学校です。本校の状況からお伝えします。図書館にいて楽しめるとか居心地の良い空間だと思ってくれている生徒は多く、金田小学校の司書と同じく、本校でも司書が生徒に声をかけたり、図書委員長と副委員長によく話しかけてくださったりするので、委員長と副委員長がイベントを自分たちで思いつくこともあります。あと、子どもたちも楽しく話していたり、今日も夏休みの期間で熱中症のアラートが出ているのに、わざわざ出向いて読書感想文の本を探したりなど、こちらが「もう帰きなさい」と言うぐらい長い時間探していたりしました。やはり本が好きな子は居心地の良い空間だなどと思ってくれています。それで、本が好きではない子も、授業で図書館に連れて行くと喜んで、絵本を読み出すなどします。図書館を楽しそうな場所だと思ってくれているところは、委員長や司書の活動のおかげかなと思って見えています。授業でも先生方にすごく協力いただいて、今年も国語科では読書感想文を書くために連れて行ったら、「何を書こうかな」とワクワクして探している様子も見られましたし、司書に「こういう本がおすすめだよ」と紹介してもらって、みんなが静かに聞いている様子も見られました。 理科の自由研究でも使っていただいていた、「こういうことが調べられるよ」と本を紹介したり、「漫画の本とかでもつながるよ」と紹介してもらって、国語科以外でも図書館を活用してもらっているというありがたい場面がありました。 イベントでも委員長と副委員長と相談しながらやっているのですが、安土中学校には読書週間が独自にあります。いつも4月23日は色々な行事があつて読書週間のイベントができないので、今年も独自に7月のはじめぐらいに1週間行いました。朝読書のときに行ったのですが、私もクラスで「先生の本紹介」という場面で紹介すると、普段全然朝読書をしないような子も聞いてくれたりということもありました。いろいろな自分が知っている本の名前を挙げるゲームもして、楽しみながらやってくれていました。 一方で課題もありまして、図書館を楽しい場所だとか、いろいろな本がありそうだとか、居心地良く思っている一方で、本を読むというところにつながないのが問題だなどと思っています。アンケートの集計もしていただいているのですが、「本を読みたくない」と言って、朝の10分ぐらいの活動のときに本を3冊ぐらい持って行って、目次だけパッパッと見て10分を終えるというような子もいます。文字を読んでいるけれども、それで良いのかなと思います。でもその子にとって苦痛な時間であるとする、どうなのかなと思いつつも、「本は、1行は読もう」と言って勧めています。図書館教育のアンケートの欄などを見ると、やはりお家では読むことにつながないということの評価が低かったりと、どうつなげていこうかというところが、課題だなどと思っています。

委員	続いて八幡東中学校ですけれど、学校経営の中で何を柱に子どもを育てていくかという視点は、様々課題があって違うのですが、本校ではずっと長い間生徒指導で困ってきたところもあって、何を切り口にするかとずっと考えてきたことの1つが読書です。もう1つは学級会活動、話し合いということです。先ほど工藤さんがおっしゃったように、読書に取り組ませるのに中学校でネックになるのは、やはり楽しんで好きになる読書は、なかなか与えないと楽しさまでとり着かないんです。どのように読書への誘いをかけていくかというところが中学校の先生の悩みで。だから、読書率が上がってこないというのはそういうことだと思いますが、読書に取り組むと決めたときに柱にしてきた1つは、朝読書をどれだけ充実させるかということです。取り組まない生徒もいる中で、「取り組まない」のか「取り組めない」のか、それとも本が無いのかよく分からないけれども、そこで考えたのは学級文庫を充実させようということした。そこには各担任の先生のアイディアというか思いがあって、「ぜひこれをうちの子に読ませたい」ということが伝わる学級文庫をそれぞれ置いておられます。中には私財を投げうって、「この前僕が読んだんだけど」というものが置いてあって、「これおすすめするわ。読む本がないのなら、これを読んでごらん」と言って渡す。手元に本がすぐにあるということは、やはり大事なのかなと。それを共通実践としてやっています。 それから、市でも様々にやっていたいいるポップコンクールへのエントリー。これに2年連続で教育長賞をもらっている素晴らしい生徒がいて、全校で取り組むと言ってやっている中での1人ですが、今3年生ですから今年も楽しみながら聞きたいなと。あれは読むだけでなく、画力がいるというか、そういうのもあるのですが、楽しんでやる1つの取組として素晴らしいことだと思っています。 委員会活動は、安土中学校でもおっしゃいましたが、どう広めていくのか。やはり1つの委員会活動の柱になっていくので、本校でも「読書ニュースの時間」ということで、お昼休みにオンラインを通じて、各学級に生放送をしています。それから、昨年わたしも順番が回ってきたので本の紹介をしましたし、そこに司書に入っていて、学校司書からの「今、学校の図書館に入っているおすすめはこれ」と言っていて、生徒は昼休みに図書室に行くんです。そういうことは、やはり大事なかなと。 それで、今、東中の看板になっているのはビブリオバトルですけれども、これはまさに読むこと、話すこと、聞くこと、それらが連携して出てくるものなので、国語科としても充実してきます。また、それを全校集会の中ですということが1つのポイントになっていて、全校生徒が集中して、その時間取り組めるというのが学校の力になっていくのかなということで、取り組み続けています。 今年は11月27日の午後と日が決まっています。今年はライオンズクラブさんがぜひ市内に広めたいと言っています。本日の資料に「ビブリオバトルの水平展開」と学校教育課の方で書いていただいていますけれども、教育長もそのようにおっしゃっています。ライオンズクラブさんも同じように近江八幡市内の子どもに本を・読書をとっておられます。それでビブリオバトルを市内に広げられないかというアイディアを持っておられるのですが、今年一足飛びにそこまでいけないので、とりあえずは東中のビブリオバトルを今年のライオンズカップにさせていただいて、来年以降各中学校で開催できればと考えています。まだアイディア段階ですが、英語の弁論大会のようにできないかなと考えていて、各学校の代表が、来年もう1度東中を会場にして、東中の何人かと各学校からの代表とで一緒にできないかなと。それを次からは会場を回す形でできないかなと。ただ、中学校はさまざま生徒指導を抱えていますので、できるようになっていたら素敵だなという構想を今ライオンズさんと持っています。そういうことを進めながら、今度ビブリオバトルも、グループの代表を決めて、学級の代表を決めて、学年の代表を決めて、そして全校でチャンプ本を決めるという手順を踏む中で、全員が参加するし、参加するためには本を読まなければいけないし。そういう誘いの仕組を作っていけたらなという風に思っています。
----	--

	ライオンズさんが味方につくと、副賞がついてきます。お金をつけていただけるので、「チャンプ本は各学校に送ります」とおっしゃっていましたし、それに副賞も、図書券か何かが付くのかな。とにかく、きっかけは何でも良いので「本を読むのは面白いな」ということに注力していきたいなと思っています。もし良ければ、11月27日午後、開催予定ですので見に来ていただけたらと思います。
委員長	見学に行ってもいいんですか。
委員	はい。一般公開です。
委員長	他はよろしいですか。 それでは次のところで、今年度の11月の市民読書月間に向けた具体的な取組についてお願いします。
事務局	5 11月市民読書月間にむけた具体的な取組について 私から本年度の市民読書月間に向けた具体的な取組をお伝えします。学校教育課が本のPOPコンクールの優秀作品を市立図書館で展示されます。また、先ほどもありましたが、ビブリオバトルの水平展開も企画中です。市民読書月間を広く周知するためのLINEの配信を、生涯学習課を中心に行います。また、おすすめ本の紹介配信ということで、7月はこのような形で生涯学習課と近江八幡図書館が協力をしてチラシを作り、全児童生徒に配布をさせていただいたのですが、11月はそれをLINEと児童生徒のタブレット端末へ配信する企画をさせていただいています。またその選書には図書館に協力をいただくことになっています。併せて、読書啓発のポスターも共同で製作をいたしまして、各校に掲示をしていただけるように準備を進めてまいります。続いて、中央公民館講座でのブックリストの配布による家読の啓発をするということと、図書館も独自に企画を現在しておられると聞いております。
委員長	はい。分かりました。これに対して何かご質問などがありますでしょうか。 よろしいですか。では、次の協議に入ります。今年度の子どもの読書活動推進研究会について、事務局よりお願いします。
事務局	6 子ども読書活動推進研修会について 8月19日火曜日の午後に、京都右京中央図書館に勤務されています国本清美さんをお招きして、研修会を開催いたします。市内教職員、保育士、学校司書の方々、市立図書館の方、保護者、読書ボランティアの方、さらに一般の方を対象に絵本の効果的な読み聞かせの技術、そして子どもの読書率向上を目指すにはどうすべきかということについて講演いただく予定になっております。
委員長	これは、広報などに書かれているんですか。
事務局	はい、広報にも掲載させていただきましたし、現在このようなポスターもコミュニティセンターや学校に掲示していただきまして、広く周知をさせていただいています。
委員長	これは、自由に聞きたい方がいらっしゃるという形ですか。
事務局	会場の準備の都合がありますし、会場の大きさもありますので、参加したい方については事前に申し込みをお願いしています。このQRコードを読み取っていただくと、一般の方はまだ申し込みができる状況になっています。

委員長	申し込みが必ず必要なんですね。
事務局	はい、お願いしたいと思います。
委員長	分かりました。これについては、どなたかご質問ありますか。よろしいですか。それでは、第2回子ども読書推進委員会について、また事務局からお願いします。
事務局	7 第2回子ども読書活動推進委員会について 第2回の推進委員会は、令和8年の2月に開催を予定しております。議題は、今年度の取組の総括、それから4月23日の子ども読書の日に向けた具体的な取組、および令和8年度子ども読書にかかる研修会の具体的な内容について予定しております。また、日程調整等をさせていただきますので、ご参加よろしくをお願いいたします。
委員長	はい。ありがとうございました。これについては、よろしいですか、みなさん。それでは、これで議題は全て済みしましたので、ここで私の任を解かせていただいてよろしいですか。ありがとうございました。
事務局	8 閉会 みなさま、本日はお忙しい中ありがとうございました。以上で、今日の会議を終了いたします。また2月にお世話になりますが、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。